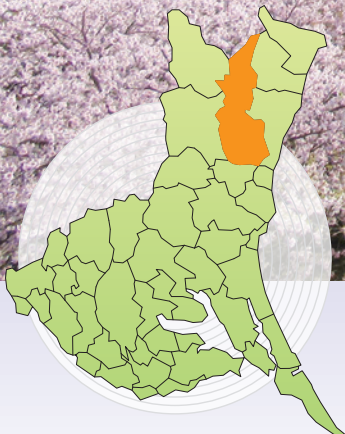


# 第56回 支店長のわがまち紹介



## 茨城県 常陸太田市

幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまち

西山公園の桜

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県常陸太田市です。太田支店長が常陸太田市長大久保太一氏にお話を伺いました。

●常陸太田市は「筑波経済月報」第9号（2014年4月）第9回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴についてお聞かせください。

### ■子育て世代が“住みたい”と感じる田舎

本市で暮らすメリットは何かと問われた時、「他の市町村には負けない子育て世代への経済支援策がある」と言えるように、平成21年からきめ細かな支援策に取り組んできました。

その成果が実を結び、「田舎暮らしの本」（発行：宝島社）2018年2月号「住みたい田舎ベストランキング 人口10万人未満 小さなまち」部門において「子育て世代が住みたい田舎」第1位を獲得しました。これからも、本市の恵まれた自然環境の中で、子どもたちが健やかに育っていきけるよう、よりよい支援策に取り組みたいと思います。



田舎暮らしの本

### ■高齢化が進む中山間地域における交通・物流手段の確保に向けて

高齢化が進む本市においては、住民の日常の足の確保が課題であったため、特に車の運転に不安を抱いている高齢者の移動支援策として、地域特性に応



常陸太田市長  
大久保 太一氏



常陸太田市  
政策企画部長  
綿引 誠二氏



太田支店長  
榎村 義広氏

じた地域公共交通の再編に取り組み、路線バスや乗合タクシーの整備を図ったところ です。

また、「公共交通を活用した貨客混載による農産物販路拡大事業」を実施しています。この事業は、都内へ出荷する地元野菜を「道の駅ひたちおた」から高速バスに積み込み、乗客と一緒に運ぶ取り組みです。人と農作物を同時に輸送することで、CO<sub>2</sub>の削減や生産性の向上に取り組んでいます。こうした取り組みが評価され、国土交通省の「第16回グリーン物流パートナーシップ会議」において「特別賞」を受賞しました。

また、国土交通省の自動運転サービス実証実験に手を挙げ、「公募型」としては全国初となる実証実験を行いました。この実験は自動運転車両が公道に出て集落まで行き、農作物を積み込み、道の駅まで運ぶものです。通常、農家は農産物の出荷のために軽トラックを運転して帰るまでに1~2時間程度の



自動運転実証実験の様子



常陸青龍



常陸柿匠・星霜柿

時間を要しており、最低でも日に2回程度は補充も含めて出荷していますが、自動運転車両が出荷場まで運ぶことが可能になれば、その手間が省けます。これまで配送にかけていた時間は農産物の生産に向けられるため、生産性の向上につながると同時に物流コストを下げることもできます。

また、現在増加傾向にある高齢ドライバーによる事故を無くすためにも、今後、導入に向けて先進的に取り組みたいと思います。

### ■特産品のブランド化に向けた取り組み

多くの農産物に恵まれた本市は、農産物のブランド化に取り組んでいます。茨城県内随一のぶどう産地となっており、これまで「巨峰」を主に栽培していましたが、「巨峰」より高い糖度と少なめの酸味が特徴の本市でしか味わえない「常陸青龍」が人気となっています。今後は「常陸青龍」の生産やPRに力を入れ、ブランド化に取り組み、より魅力のあるぶどうの生産地にしたいと考えています。

また、柿についても本市の生産者が非常に面白い柿を栽培しています。通常の渋柿は、渋を抜くことで柔らかくなりますが、この柿は、木にならせたままで渋を抜くことで柿本来の食感を楽しむことができ、甘柿よりも糖度が高くなるという特徴があります。種はありませんが、輪切りにすると本来種が入るべき場所が星の形になっていること、霜が降りる時期にできることなどから、「星霜柿」と名づけました。都内の高級果実店でも取り扱われるなど人気となっており、今後力を入れていきたいと思っています。

さらに、市内には、本市発祥の常陸秋そばを原料としたそば焼酎があります。飲んだ後に常陸秋そばの甘みが残るこのそば焼酎は、本市にしかありません。他では味わえないこの一品をぜひ多くの方に味わってほしいと思います。

その他にも本市には様々な特産品があります。今後は道の駅を有効に活用して、それらのブランド化に取り組んでいきたいと考えています。

### ●今後の展望について

#### ■幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまちを目指して

市内における買い物環境の充実や雇用の場、特に女性の雇用創出を目的として、現在、約26haの区画整理事業を計画しています。市内で不足している紳士服や赤ちゃん用品などの店舗を誘致し、買い物環境を改善していきたいと考えています。商業施設が立地することにより、そこに働くことができれば、近くの保育園にお子さんを預けることもできます。また、これまで購入できなかったものが買えるようになればお金も循環し、市内経済の発展や生活利便性の向上にもつながります。

また、本市は、子育て支援策が充実していることが徐々に浸透しつつあり、若い世代の住宅の需要が多く、アパートなどは建設中にもかかわらず戸数を上回る応募がある状態です。そのため、現在、子育て世代に配慮した3階建ての賃貸集合住宅の建設をプロポーザルで募集しています。

さらに、子育て支援に魅力を感じてアパートなどに仮住まいした家族に引き続き市内に住んでもらうため、市街化調整区域内の一部においても家を建てられるように条件を緩和しました。公共下水道が整備されていない地域もありますが、市が合併浄化槽を1戸ごとに設置してメンテナンスまで行い、利用者に毎月使用料を払ってもらう方法をとっています。

今後も本市で暮らす全ての方が、幸せを感じて、暮らし続けたいと思うまちを目指してまいります。

#### ●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

筑波銀行には定住支援対策として、子育て世代の住宅ローン金利を下げる取り組みをしていただいています。そのおかげもあり、最近では最初から家を建てて移り住んでくれる若者も増えました。今後も少子化・人口減少対策に取り組んでまいりますので、さらなるご支援をお願いします。